

中能登町における観光・交流振興プランの作成と交流イベントの企画・実施支援

指導教員：金沢星稜大学経済学部特任教授・捧富雄

参加学生：（金沢星稜大学）窪大志、高井竜也、西谷陸、能村拓海、南和貴、山岡魁成、伊藤ひかる、大瀧梨瑛、岡田光太、神田美咲、中川裕士郎、西田勝利、野村光、細川りさこ、堀田沙彩、本橋智也

1. 調査研究成果要約

中能登町の現地調査研究や先進地事例調査研究、観光関係学会での発表による観光研究者のアドバイスなどに基づき、「中能登町観光・交流振興プラン」として、「中能登町の特性を活用した観光コース」「中能登町における観光・交流イベント」「中能登町の観光情報発信方策」「バリアフリー観光の推進策」の4項目について提案をまとめた。

2. 調査研究の目的

大都市部への人口集中や少子高齢化などに伴う人口減少、地域活力の低下といった課題を抱える地方部の市町村にとって、いかにして地域を振興していくかは大きな課題である。その対策のひとつとして、観光や交流活動を盛んにして地域外からの誘客を図り、いずれは地域定住につなげようという動きが活発になっている。

能登半島のほぼ中央に位置し、人口減少が続く中能登町においても、「観光交流づくり」「観光資源の発掘」「観光情報発信」「バリアフリー観光の推進」を主要な施策とする「観光の振興」を「第2次中能登町総合計画」（2017年3月）で位置づけ、「中能登町の特性を生かした町内外の利用者による交流の活性化」を地域の課題としている。

この地域課題に対応して、「観光による地域活性化」をゼミ活動のテーマとする金沢星稜大学捧ゼミナールは、

- ①中能登町の観光・交流振興プラン（案）を計画すること。
- ②中能登町における交流イベント（案）の企画の提案を行うこと。
- ③中能登町の観光情報提供などのための資料（案）を企画すること。

を目的とする調査研究活動を行った。なお、当初の目的では「②で企画した中能登町における交流イベント実施の支援活動を行う。」ことも含めていたが、想定していたイベントの開催日が本学の学園祭と近接しており、ゼミのメンバーのほとんどが参加できなくなったため、中能登町と相談の上、目的を企画の提案に絞ることにした。

2. 調査研究の内容

2-1. 中能登町現地調査研究活動

上記の目的を達成するため、中能登町役場と連携して中能登町内の調査を以下のように実施した。

2-1-1. 「バリアフリー観光推進全国フォーラム石川大会・エキスカッション（中能登町）」への参加

中能登町現地調査のための予備調査として、NPO法人石川バリアフリースーツアーセンターが主催して2017年7月1日（土）に行われた「バリアフリー観光推進全国フォーラム石川大会」のエキスカッションに参加し、中能登町の「ふるさと創修館」「古民家みおやの里」「不動滝」について現状視察を行った。視察した内容などについては参加学生がレポートにまとめるとともにゼミナールで発表し、情報の共有化を図った。

2-1-2. 「中能登町第1回現地調査研究・企画打合せ」

2017年7月26日（土）に、中能登町企画課職員の案内により、「映画（「ママ、ごはんまだ？」）」

ロケ地」、「不動滝」、「ラビア鹿島」(ハロウィンイベント会場)、「能登上布会館」、「織物デザインセンター」などを巡り、中能登町の観光資源や施設について実態を調査するなどの調査研究活動を行った。また、ハロウィンイベントの企画などについて意見交換を行い、学生からアトラクションについても提案などをした。調査した内容については、参加学生がレポートにまとめるとともにゼミナールで発表し、情報の共有化を図った。



「機織り体験」の調査

2-1-3.「中能登町第2回現地調査研究・企画打合せ」

2017年8月30日(木)～9月1日(金)に1泊2日で行った。「古民家みおやの里」において、中能登町が進めている「ワクドキ夢プラン」の概要説明を受けるとともに、「石動山(大宮坊)」、「伊須流岐比古神社」、「道の駅織姫の里なかのと」、「雨の宮古墳群(古墳群と王墓の館)」、「基石が峰」を町職員の案内により視察した。また、地域人材ネットの大湯氏のアドバイスを受けながら、3グループに分かれて観光ツアープラン(案)を企画するなどの研究活動や企画の打ち合わせなどを行った。調査研究した内容については、参加学生がレポートにまとめるとともに、後期のゼミナールで発表し、情報の共有化を図った。



観光ツアープランの検討

2-1-4.「中能登町第3回現地調査研究・企画打合せ」

2018年1月31日(水)に、中能登町企画課職員の案内により、「天日陰比咩神社」(宮司さんへのヒアリングを含む)、「親王塚古墳」、「町内の隠れた名店」、「桜祭り会場」などの調査研究活動を行うとともに、提案する企画についての打ち合わせを行った。

2-2. 先進地事例調査研究活動

中能登町の「観光・交流ビジョン(案)」を提案するにあたって、先進地事例として以下の地域の調査研究を行った。

2-2-1.岐阜県高山市・白川村の調査研究

観光地づくりの先進事例である岐阜県高山市と、世界遺産登録地の白川郷における観光の実態を視察して調査研究する活動を2017年9月6日(水)～9月7日(木)に1泊2日で行った。

白川郷では、観光客への対応についての実態などを視察した。また、高山市では、同市の観光課職員から、中能登町でも進めているバリアフリー観光に対する高山市の考え方や取組みのほか、外国人旅行者誘致に対する考え方や取組みなどについて説明を受けるなどの調査研究活動を行った。さらに、「高山陣屋」や「飛騨の里」などで観光客の活動やそれに対する施設の対応などの実態を視察した。調査研究した内容については、参加学生がレポートにまとめるとともに後期のゼミナールで発表し、情報の共有化を図った。

2-2-2.大阪府大阪市における調査研究

2017年11月23日(木)に、大阪の観光魅力について調査研究を行った。中能登町と大阪の魅力は関係がないように考えられるが、中能登町には地域外からの来訪者でにぎわうパン屋など、おしゃれで都市的な魅力がある。こうした魅力を都会ではどのように演出しているのかを探るため、大阪の繁華街である道頓堀において、各店舗の装飾やもてなし方について調査研究を行った。また、「海遊館」においては、大規模観光レクリエーション施設が来訪者にどのような配慮を払っているかなどについて観察した。結果として、大都市の店舗ではミニコミなどの情報(「〇〇で選ばれた」など)によってアピールしたり、「海遊館」では水槽前に長椅子を置いて寛いで鑑賞してもらうなどの配慮が

なされていた。これらの情報提供や消費者ニーズへの対応は、中能登町でも取り入れるべき項目であるといえる。なお、参加学生はレポートを提出し、今後のプラン作成にとって役に立つと思われる点についてまとめるとともにゼミナールで発表し、情報の共有化を図った。

2-3. 日本観光研究学会全国大会における中間発表

2017年12月3日（日）に本学で開催された「第32回日本観光研究学会全国大会」のポスターセッションにおいて、本調査研究について中間発表を行い、全国から参加した観光研究者にアドバイスをいただいた。

4. 調査研究の成果

上記の調査研究に基づき、「中能登町観光・交流振興プラン」として、以下の4項目について提案を行った。

1. 中能登町の特性を活用した観光コース
2. 中能登町における観光・交流イベント
3. 中能登町の観光情報発信方策
4. バリアフリー観光の推進策

4-1. 観光コース

ここでは2つの町内めぐりツアーコースを提案する。

①「学びがたくさん 元気UPツアーin 中能登」

都会（関西圏）の親子、家族をターゲットとし、夏休みの2泊3日で中能登町の魅力を満喫してもらおうというもので、最初はモニターツアーを実施し、中能登町の魅力をアピールするとともに内容のブラッシュアップを図ることとする。

②「疲れない美容inツアー」

石川県や富山県在住の20代から50代の女性をターゲットとし、美容食やインスタ映えなど若い女性が興味を持つような1泊2日のツアーとする。石動山や伊須流岐比古神社で自然に直に触れ、心を休ませることが目的である。ジビエ料理も提供する。

4-2. 観光・交流イベント

「新三大祭り」と「春の花まつりin 中能登」の2つを提案する。

①「新三大祭り」

地元以前からある歴史ある祭り以外にも、若者の誘致などを目的とした現代的な新しい祭りやイベントを企画し、中能登町への集客やイメージアップにつなげる。これにより、この時期といえ、中能登町の〇〇といったイメージをつくり、他市や他県からの集客、認知を図る。また、若者がSNSに投稿したくなるような「映え」のある環境をつくることで、SNSの中で話題、流行を狙うことができ、中能登町が世界中に広まり、イメージアップや周知につなげることが期待される。1年を通して、季節ごとにイベントがある明るく楽しいまちづくりを目指す。

イベントの内容としては、以下のものが考えられる。

夏 七夕まつり(7月)

中能登町の繊維とゆるキャラの織姫ちゃんとの掛け合いにより、中能登町とかがわりの深さ、イメージが付きやすいと考える。内容は、大きな笹の葉を設置し、だれもが短冊を書くことができるようにする。また、当日は家族連れや若者、お年寄りなど、だれもが楽しめる企画を催す（例：中能登音頭、保育園の園児による和太鼓演奏、七タイルミネーション点灯、ビンゴ大会など）。

秋 ハロウィンイベント(10月)

すでに開催されている中能登ハロウィンイベントに、更に近年の流行である「インスタ映え」を加え若者の参加を募る他、SNSの投稿により中能登町が世界に発信されることを目指す。内容の例としては、トリックアート、コスプレ大会、キャンドルナイトなどが考えられる。

冬 中能登カウントダウン(12月)

年末の年越しカウントダウンを行い、年明けと同時に花火を打ち上げる。カウントダウンの打ち

上げ花火ということもあり、多くの集客も見込める。また炊き出しのうどんやスープなども配給し、新年を祝う最初の一大イベントとする。会場としては基石が峯自然公園や古墳公園などの池を利用することなどが考えられる。

②「春の花まつり in 中能登」

花であふれる中能登町を目指し、住民の参加型イベントにより、町を自分たちの手で盛り上げながら、よりよいまちづくりへの展開を図る。内容としては、春に毎年さくらの木を植え、将来的には桜の町、花見の中能登町を実現し、春先に多くの観光客の誘致を図る。また、町の花であるユリの花を含め、様々な花を住民が町のあちこちや公園の花壇などに植える。

こうしたことにより、春を迎えた喜びを楽しむほか、環境美化活動や家にこもりがちなお年寄りの参加により、交流、自身の健康など地域の連携や体を動かす習慣など様々な効果が期待できる。

また毎年行われている既存の桜まつりでは会場の鹿島中学校の桜並木をバックに、ステージを作成し、和太鼓演奏や獅子舞披露、幼稚園や保育園のステージや地元の吹奏楽部による演奏など様々な演目を用意し、地域内外の交流を図る。

4-3. 観光情報発信方策

○情報の内容や提示の仕方の改善

- ・消費者の目線から情報を提供する：「自分だけの織物づくり＝コースターから着物まで」（上布会館）、「心を洗う」（不動の滝）、「歴史を学ぶ」（古墳群など）、「睡眠不足」（大宮坊で昼寝）、「美味しいものづくり」（農作業とジビエ料理体験）、「運動不足」（街道ウォーク、トレジャートレイル）など、消費者の欲求や活動に基づいて提供する情報のテーマを設定する
- ・意外性のある情報の発信：「古民家風のおしゃれなカフェ」「おいしいパン屋さん」「行きにくい店」などを紹介する

○提供手段や提供者の多様化

- ・ホームページに加えて、町のアカウントをつくりSNSでの拡散を図る
- ・テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスコミへのニュースソース提供を一元的にできるようにし、町内からの情報提供を継続的に呼びかける

4-4. バリアフリー観光の推進策

- ・特別な観光コースを設定するのではなく、その人の状況に合わせて、出来るだけ健常者と同様に活動できるように配慮してサポートすることを基本的な考え方とする。
- ・ハード面の整備については、健常者を含めて誰もが使いやすいように整備を行う。ただし、観光資源の保護については十分に配慮し、もとの価値を損なわないようにする。

5. 来年度の調査研究計画

中能登町と七尾市の観光地域づくりを推進する「日本版DMO」として一般社団法人「ななお・なかのとDMO」が2017年11月に設立されており、昨年度（2016年度）の和倉温泉における電動アシスト自転車による観光コース設定の調査研究活動も生かして、七尾市・中能登町地域の観光・交流振興に寄与する調査研究活動を行いたいと考えている。

6. 調査研究に対する地域からの評価

今回の若い世代を代表する学生による提案は、各地区にとっても有意義な調査研究だったと考えられる。たとえば、今回はイベントの支援活動は実施できなかったものの、調査研究の段階で学生たちが述べた意見や提案の一部は実際のイベントで活用されており、大変参考になったということだった。